

5	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15107006	光と温熱の環境要因に対する生理的多型性と その適応能力	安河内 朗 (九州大学・大学院芸術工学研究院・教授)	B
<p>(意見等)</p> <p>研究計画に沿って進展している点は評価できるが、実験内容の厳密さに関して若干の疑問が感じられる。すなわち、実験に当たっては、目的に合致した十分な数の被験者を選び、分析要素を厳選して、生物学的レベルと生活行動レベルを厳密に区別して行うべきであろう。さもないと、どの要素を分析しているのか判断できない恐れがある。今後、客観的なデータを積み上げて、生理的多型性が適応のための全身的協関反応にどの程度の変化をもたらしているか、具体的に明らかにしていただきたい。なお、評価に耐える国際的なジャーナルに成果を発表していただきたい。</p>				
6	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15108001	植物オルガネラ間相互作用による異物認識機構に関する分子解析	白石 友紀 (岡山大学・農学部・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>植物病原菌の感染成立のメカニズムに関して、シロイヌナズナ等のモデル植物を用いて植物病原菌の感染成立に植物細胞表面に存在するアピラーゼ(ATP や ADP を分解する)の関与とアピラーゼを起点とする情報伝達系の存在を明らかにした。これは、植物細胞表面において病原体を異物として認識する機構のあることを明らかにしたもので、植物病理学分野において高く評価されている。また、植物病防御機構において重要な過敏反応細胞死についてもオルガネラ間のクロストークを分子レベルで解析をすすめ成果を上げている。このように、本研究は植物—病原微生物相互作用における異物認識、そのシグナル伝達系についてのモデルの提示にむかって着実に成果を上げている。今後、より統合的な植物—病原菌相互反応の分子機構の解明が望まれる。</p>				